

# 酒匂川左岸土地改良区における要望活動

【西湘支部】（県西地域県政総合センター農地課）

酒匂川左岸土地改良区は、県から委託を受けて、酒匂堰水路、鬼柳水路など約 21km にわたって水路・水門の運用と維持管理を行っています。

近年では、ソフト事業の実施により、事業効果の更なる発現を図るため、水路や受益地内に生息する重点対策外来種であるスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）やオオカナダモの駆除活動を県と共同で取り組んでいます。

また、土地改良区内の小田原市千代地区では、県営ほ場整備事業の準備が進められています。

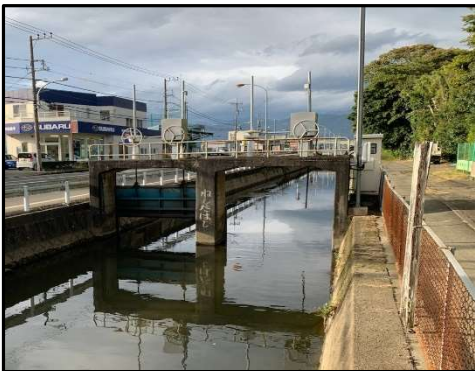
この酒匂川左岸土地改良区の取組について、広く理解をいただくとともに、今後の安定的・計画的な事業推進を図るため、県幹部に要望活動を実施しました。

## 【酒匂川左岸土地改良区と県の取組】

### 〔湛水防除事業〕

湛水防除事業は、流域の開発など立地条件の変化により農地及び農業用施設のほか、都市施設に湛水被害をもたらしている地域や今後被害を生ずるおそれのある地域を対象にして、排水機能を回復するための整備を行い、被害を防止し農業経営の安定を図るとともに地域住民の安全に資する事業です。

○今年度の実施中の工事○



令和元年の集中豪雨により、水門扉が破損した根下堰を自動転倒ゲートに改修

### 〔オオカナダモ対策〕

流域では、産業系の保留区域の開発や住宅等の転用が進み、ゲリラ豪雨時における溢水被害等の不安が続いています。また、外来種であるオオカナダモ（重点対策外来種）の繁殖が著しい状況となっており、地元自治会、土地改良区、県、市を巻き込んだ形での駆除（総勢 200 名で実施）や水路底面へのコンクリート打設（県営事業で実施）など、ハード・ソフト対策を導入しているものの、改善が見られず、断面の阻害により、今年度も溢水被害が生じました。根本的な発生抑制対策を構築する必要があります。



オオカナダモの影響による溢水（R2.9 月）



溢水後の状況（R2.9 月）



県、土地改良区、自治会等による藻狩り作業



遮光ネットによる実証実験

### [ジャンボタニシ対策]

昨今、小田原市内の酒匂堰用水域の水田では、重点対策外来種であるジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）による苗の食害が見受けられ、生息域も年々拡大しています。

水田では、個々の農家が薬剤散布や冬期耕うんにより対策を講じていますが、対策は広がらず、改善がみられない状況です。

また、県が管理する水路でも発見されるなど、土地改良区のみならず、農家団体、農協等を巻き込んだ形での駆除対策について、早急の構築が必要です。

県と土地改良区では、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の被害が発生している地域において、地域一丸となった駆除対策を実施するとともに、関係各機関による被害状況の確認や、対策等の情報共有を行い、被害エリアが拡大しないよう取組を進めています。



ジャンボタニシ及びジャンボタニシの卵（水路壁のピンク色の塊）



食害の状況（約 60ha までジャンボタニシの生息域が拡大し、食害広がっている）



県立小田原養護学校大井分教室の生徒と駆除活動を実施（ペットボトルわなの製作と捕獲）

**[要望活動]**

県環境農政局長及び県西地域県政総合センター所長等県幹部と面談し、以上の取組や課題について説明するとともに、一層の理解と支援について要望しました。



令和3年1月7日（木）小田原合同庁舎 県西地域県政総合センター所長室  
 剣持理事長、柳川副理事長が藤澤所長、鈴木副所長へ要望（理事長が収穫された「さかわのめぐみ はるみ米」を贈呈）



令和3年1月7日（木）神奈川県庁 環境農政局長室  
 剣持理事長、柳川副理事長が石渡環境農政局長、南雲副局長、小澤農政部長、吉田農地課長へ要望（理事長が収穫された「さかわのめぐみ はるみ米」を贈呈）